

フィデリティ・ 世界分散・ファンド (債券重視型／株式重視型)

愛称：3つのチカラ

追加型投信／内外／資産複合
2014.8.9

隔月
決算

ファンド名	商品分類			属性区分				
	単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
債券重視型	追加型投信	内外	資産複合	その他資産(投資信託証券)資産複合(株式(一般)、債券(一般)、不動産投信)資産配分固定型	年6回 (隔月)	グローバル (含む日本)	ファンド・オブ・ファンズ	なし
株式重視型								

※属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

※商品分類及び属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<http://www.toushin.or.jp>)をご参照ください。

- 本書は、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。
- 投資信託説明書(請求目論見書)は、委託会社のホームページで閲覧、ダウンロードできます。また、本書には投資信託約款の主な内容が含まれておりますが、投資信託約款の全文は投資信託説明書(請求目論見書)に掲載されております。
- ファンドの販売会社、ファンドの基準価額等の詳細情報は、下記委託会社の照会先までお問い合わせください。

委託会社〔ファンドの運用の指図を行なう者〕

フィデリティ投信株式会社

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第388号

設立年月日：1986年11月17日

資本金：金10億円(2014年6月末現在)

運用する投資信託財産の合計純資産総額…
4兆3,133億円(2014年6月末現在)

受託会社〔ファンドの財産の保管及び管理を行なう者〕

三菱UFJ信託銀行株式会社

●この投資信託説明書(交付目論見書)により行なうフィデリティ・世界分散・ファンド(債券重視型)及びフィデリティ・世界分散・ファンド(株式重視型)の募集については、委託会社は、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を2014年2月6日に関東財務局長に提出し、2014年2月7日にその届出の効力が生じております。

●ファンドの商品内容に関して重大な変更を行なう場合には、投資信託及び投資法人に関する法律(昭和26年法律第198号)に基づき、事前に投資者の皆様にご意向を確認させていただきます。

●ファンドの財産は、信託法(平成18年法律第108号)に基づき受託会社において分別管理されています。

●投資信託説明書(請求目論見書)は、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。なお、販売会社にご請求された場合は、その旨をご自身で記録しておくようにしてください。

●ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

〈照会先〉 **フィデリティ投信株式会社**

●フリーコール： **0120-00-8051** (受付時間：営業日の午前9時～午後5時)

●ホームページ：<http://www.fidelity.co.jp/fij/>



1. ファンドの目的・特色

ファンドの目的

ファンドは、主として、フィデリティ・ワールド債券・マザーファンド、フィデリティ・ワールド株式・マザーファンド、フィデリティ・ワールドREIT・マザーファンド*、フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンド*（以下「マザーファンド」といいます。）の各受益証券への投資を通じて、世界（日本を含みます。）の債券、株式、不動産投資信託（リート）へ実質的に分散投資を行ない、主として配当等収入を確保することを目的に運用を行ない、長期的な投資信託財産の成長を目指します。

※2014年8月8日以降、「フィデリティ・ワールドREIT・マザーファンド」から「フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンド」へ投資対象ファンドの変更を実施いたします。詳しくは、後記「5.追加的記載事項[投資対象ファンドの変更のお知らせ]」をご参照ください。

ファンドの特色

1 主として、フィデリティ・ワールド債券・マザーファンド、フィデリティ・ワールド株式・マザーファンド、フィデリティ・ワールドREIT・マザーファンド、フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンドの各受益証券への投資を通じて、世界（日本を含みます。）の債券、株式、不動産投資信託（リート）へ実質的に分散投資を行ない、主として配当等収入を確保することを目的に運用を行ない、長期的な投資信託財産の成長を目指します。

2 フィデリティ・ワールド債券・マザーファンド、フィデリティ・ワールド株式・マザーファンドの運用は、国内外の投資信託証券*（投資対象ファンド）への投資を通じて行ない、ファンド分散・地域（種別）分散を図ります。

3 各マザーファンドへの基本配分は、主として各資産の利回り水準、流動性、リスク・リターン特性等を考慮して配当等収入の確保とリスクの分散を目指して決定します。また運用環境の変化により配分比率を調整することがあります。

4 各マザーファンド受益証券への資産配分は、概ね投資信託財産の純資産総額に対して以下の比率を基本投資割合とします。

	フィデリティ・ワールド 債券・マザーファンド	フィデリティ・ワールド 株式・マザーファンド	フィデリティ・ワールド REIT・マザーファンド* / フィデリティ・グローバル・ リート・マザーファンド*
フィデリティ・世界分散・ファンド(債券重視型)	70%	15%	15%
フィデリティ・世界分散・ファンド(株式重視型)	35%	50%	15%

※2014年8月8日以降一定期間は、2つの投資対象ファンドに投資することになりますが、ファンドの「世界リート」への基本資産配分が変わることはありません。

5 隔月決算を行ない、基準価額の水準、市況動向を勘案して分配を行ないます。分配は、利子・配当等収入の他、売買益（評価益を含みます。）からも行ない、安定的な分配を目指します。

6 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行ないません。

※資金動向、市況動向、残存信託期間等によっては上記のような運用ができない場合もあります。

* FILリミテッドおよびフィデリティ・マネジメント・アンド・リサーチ・カンパニーならびにそれらの関連会社が運用する投資信託証券をいいます。

ファンドのポイント

世界の債券、株式、リートに分散投資します。

- 海外などで既に運用実績のある、複数のファンドを「ファンド・オブ・ファンズ形式」でパッケージ。
- 世界の債券、株式、リートに分散投資することで、リスクを抑えつつ魅力的な配当等収入と運用資産の成長を目指します。
- 債券、株式、リートの配分比率を変えた、2つのコースをご用意。

【基本資産配分】(2014年6月末日現在)

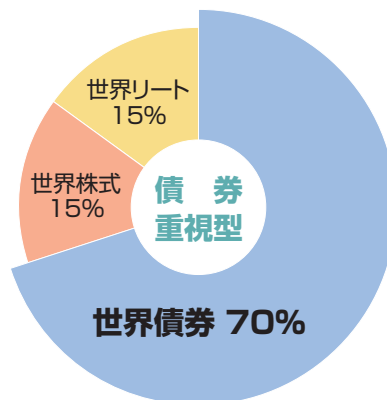
債券重視型

1 「債券約7割」

元本の安定性に配慮した配分。

2

株式とリート等を等分に配分し、分散投資効果と値上がり益にも期待。



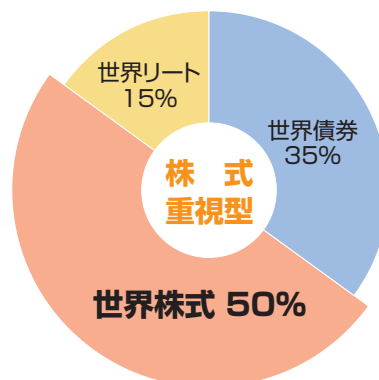
株式重視型

1 「株式約5割」

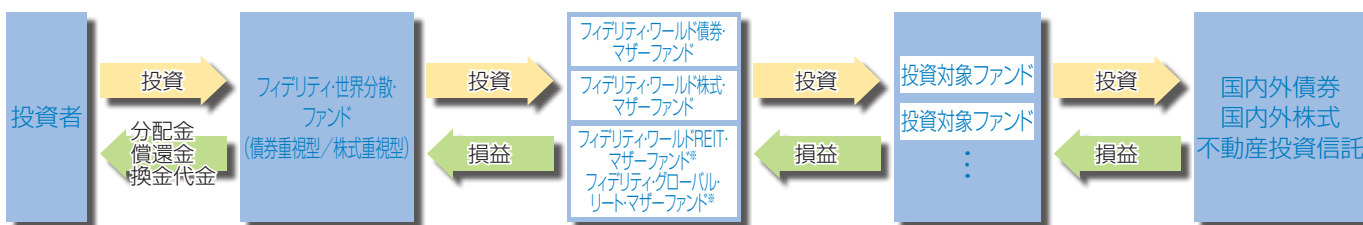
元本の成長性も睨んだ配分。

2

債券とリートには分配金を期待。



ファンドの仕組み



各ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、主として国内外債券、国内外株式、国内外の不動産投資信託(リート)に投資する複数の投資信託証券(投資対象ファンド)へ実質的に投資を行なう、ファンド・オブ・ファンズです。

※2014年8月8日以降、「フィデリティグローバルリートマザーファンド」へ投資対象ファンドの変更を実施いたします。詳しくは、後記「5.追加的記載事項[投資対象ファンドの変更のお知らせ]」をご参照ください。

主な投資制限

投資信託証券および短期金融商品(短期運用の有価証券を含みます。)以外への投資	直接投資は行ないません。
外貨建資産への実質投資割合	制限を設けません。
同一銘柄の投資信託証券(マザーファンドの受益証券を除きます。)への実質投資割合	投資信託財産の純資産総額の50%以内とします。ただし、約款または規約においてファンド・オブ・ファンズにのみ取得されることが定められている投資信託証券については、投資信託財産の純資産総額に対する同一銘柄の時価総額の制限を設けません。
同一銘柄の不動産投資信託証券への実質投資割合	投資信託財産の純資産総額の30%以内とします。

収益分配方針

毎決算時(原則1月、3月、5月、7月、9月および11月の各10日。同日が休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の収益分配方針に基づき分配を行ないます。

- 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当等収入と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行なうものではありません。
- 留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行ないます。

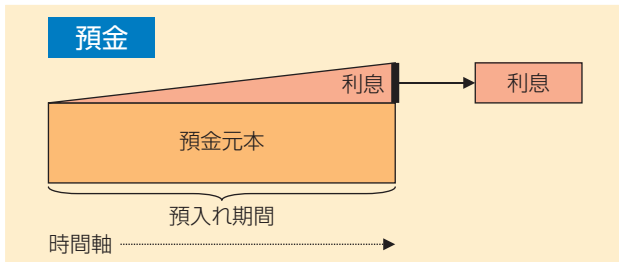
*原則として、利子・配当等収入を中心に安定分配を行なうことを目指します。また、毎年3月および9月に到来する計算期末においては、基準価額水準等を勘案し、上記安定分配相当額に加えて分配対象額の範囲から、委託会社が決定する額を付加して分配を行なう場合があります。

*各計算期末の分配対象額の範囲の考え方については、委託会社の判断により今後変更されることがあります。

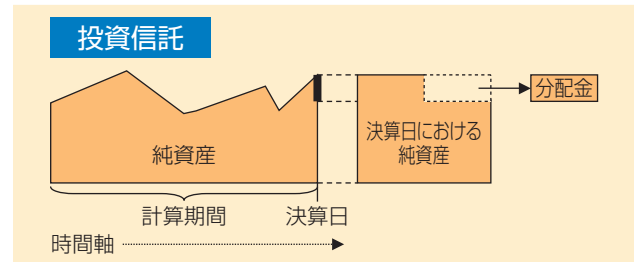
※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

[収益分配金に関する留意事項]

分配金は、預貯金の利息とは異なります。分配金の支払いは純資産から行なわれますので、分配金支払い後の純資産は減少することになり、基準価額が下落する要因となります。



(注) 預金は定率の円建て預金をイメージして記載しています。預金元本は必ずしも全額保証されているものではありません。

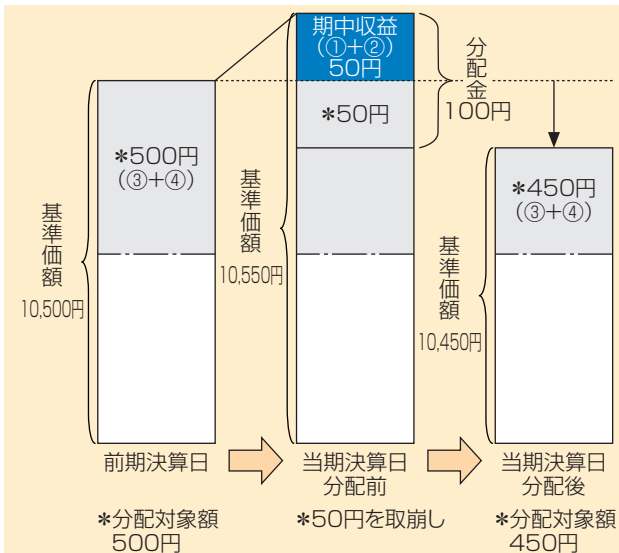


(注) 投資信託の純資産から支払われる分配金をイメージして記載しています。

分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。計算期間におけるファンドの運用実績は、期中の分配金支払い前の基準価額の推移および収益率によってご判断ください。

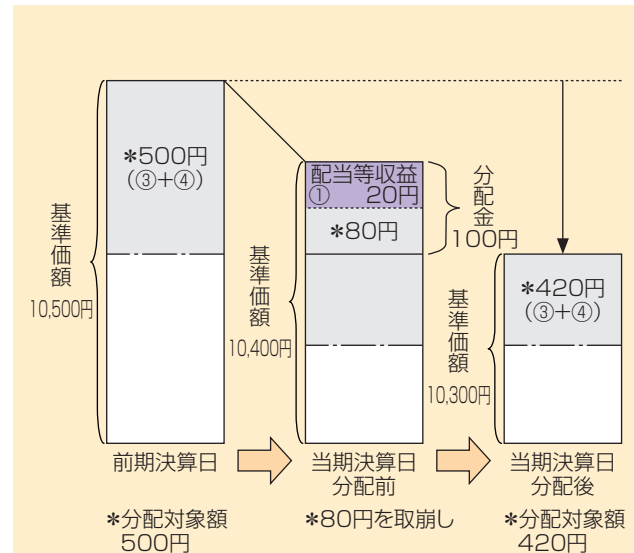
投資信託は、当期の収益の他に、ファンドの設定から当期以前の期間に発生して分配されなかった過去の収益の繰越分等からも分配することができます。

前期決算から基準価額が上昇 当期計算期間の収益がプラスの場合



* 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
* 上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

前期決算から基準価額が下落 当期計算期間の収益がマイナスの場合

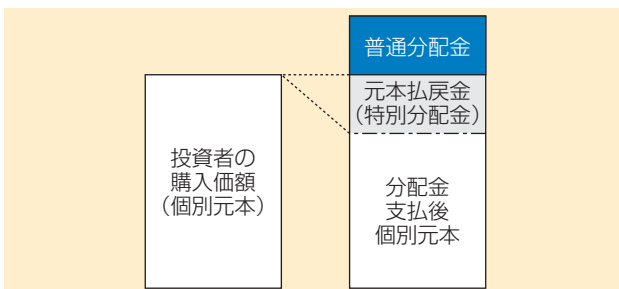


投資者のファンドの購入価額によっては分配金はその支払いの一部、または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

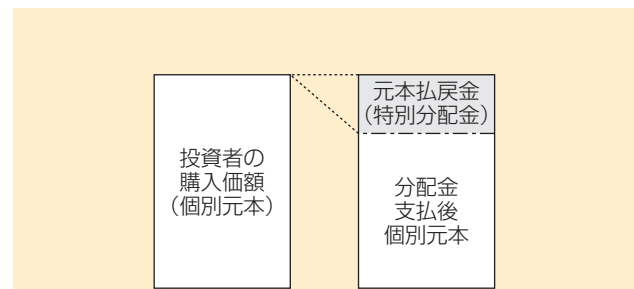
ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

ファンドの購入価額は、個々の投資者によって異なりますので、投資期間全体での損益は、個々の投資者によって異なります。

分配金の一部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合



・「個別元本」とは、追加型投資信託の収益分配金や解約(償還)時の収益に対する課税計算をする際に用いる個々の投資者のファンドの購入価額のことを指します。
・「普通分配金」とは、個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
・「元本払戻金(特別分配金)」とは、個別元本を下回る部分からの分配金です。実質的に元本の払戻しに相当するため、非課税扱いとなります。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

* 普通分配金に対する課税については、「4. 手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照ください。

2. 投資リスク

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。したがって、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。

ファンドが有する主なリスク等(ファンドがマザーファンドを通じて主に投資を行なう投資対象ファンドが有するリスク等を含みます。)は以下の通りです。

主な変動要因

価格変動 リスク	基準価額は有価証券等の市場価格の動きを反映して変動します。有価証券等の発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなる場合があります。
信用リスク	有価証券等への投資にあたっては、発行体において利払いや償還金の支払いが遅延したり、債務が履行されない場合があります。なお、ハイ・イールド債およびエマージング・マーケット債に投資を行なう場合には、上位に格付された債券に比べて前述のリスクが高くなります。
金利変動 リスク	公社債等は、金利の変動を受けて価格が変動します。一般に金利が上昇した場合には債券価格は下落し、金利が低下した場合には債券価格は上昇します。
為替変動 リスク	外貨建の有価証券等に投資を行なう場合は、その有価証券等の表示通貨と日本円との間の為替変動の影響を受けます。
デリバティブ (派生商品)に 関するリスク	ファンドは、有価証券先物、各種スワップ、差金決済取引等のデリバティブ(派生商品)を用いることがあります。デリバティブの価格は市場動向などによって変動するため、基準価額の変動に影響を与えます。デリバティブが店頭取引の場合、取引相手の倒産などにより契約が履行されず損失を被る可能性があります。デリバティブの利用はヘッジ目的に限定されず、運用の効率を高めたり、超過収益を得るための手段として用いられる場合もあります。デリバティブは基礎となる資産、利率、指数等の変動以上に値動きする場合があります。また、デリバティブ以外の資産の価格の動きに加えて、デリバティブの価格の動きがファンドの基準価額の下落要因となる場合があります。
リートに 関わるリスク	リートへの投資においては、保有不動産の評価額、リートに関する規制(法律、税制、会計等)、不動産市況(空室率の変動等)等、リート固有の価格変動要因の影響を受けます。
エマージング 市場に関わる リスク	エマージング市場(新興諸国市場)への投資においては、政治・経済的不確実性、決済システム等市場インフラの未発達、情報開示制度や監督当局による法制度の未整備、為替レートの大きな変動、外国への送金規制等の状況によって有価証券の価格変動が大きくなる場合があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

リスクの管理体制

投資リスク管理および投資行動のチェックについては、運用部門が自ら行なう方法と、運用部門から独立している運用に関するコンプライアンス部門が行なう方法を併用し検証しています。

- **運用部門** 部門の担当責任者と運用の指図を行なうポートフォリオ・マネージャーが、さまざまなリスク要因について協議し、ポートフォリオ構築状況をレビューしています。
- **運用に関するコンプライアンス部門** 法令および各種運用規制等の遵守状況について、モニタリングの結果を運用部門等にフィードバックしています。

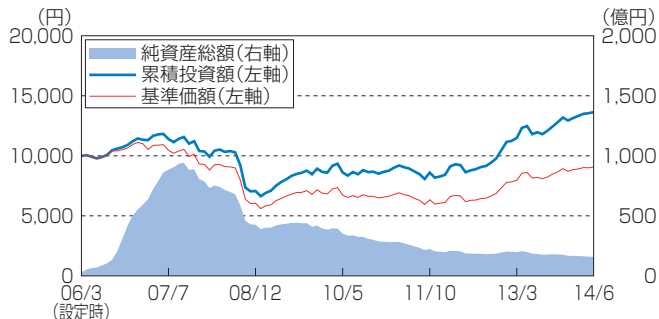
3. 運用実績

(別途記載がない限り2014年6月30日現在)

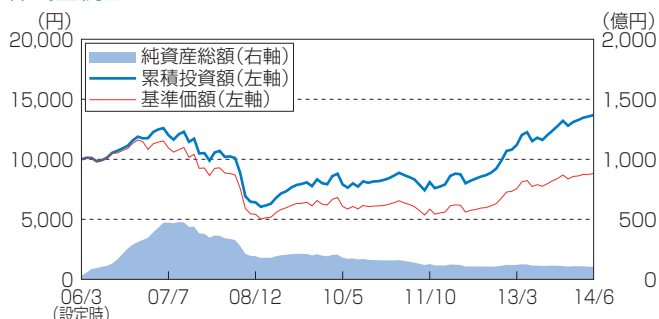
※運用実績等について別途月次等で適時開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧できます。
 ※下記データは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。
 ※別途記載がない限り、主要な資産の状況は対純資産総額比率です。
 ※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。
 ※未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

基準価額・純資産の推移

債券重視型



株式重視型

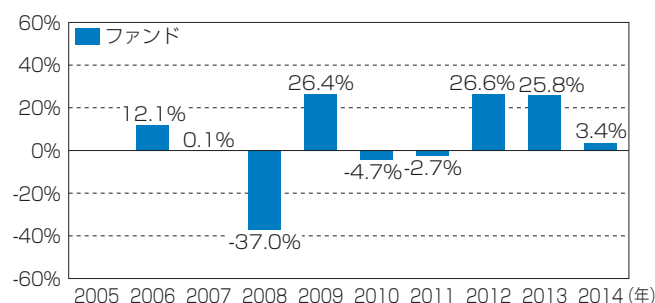


※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
 ※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後のものです。

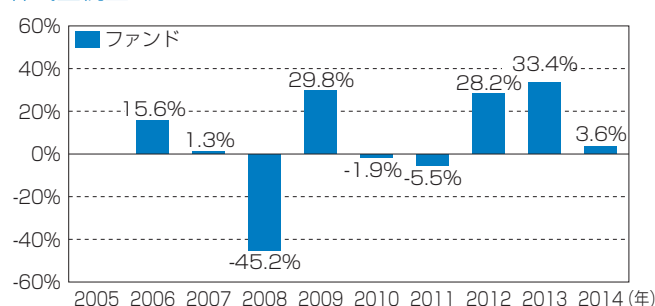
基準価額	債券重視型 9,061円	株式重視型 8,822円
純資産総額	債券重視型 158.0億円	株式重視型 104.6億円

年間収益率の推移

債券重視型



株式重視型



※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりませんので、ファンド設定前の年間騰落率についての情報は記載しておりません。
 ※ファンドの収益率は、収益分配金(税込)を再投資したものとみなして算出しています。
 ※2006年は当初設定日(2006年3月9日)以降2006年末までの実績、2014年は年初以降6月末までの実績となります。

分配の推移

決算期	分配金(1万口当たり/税込)	
	債券重視型	株式重視型
2013年 9月	55円	60円
2013年 11月	55円	60円
2014年 1月	55円	60円
2014年 3月	55円	60円
2014年 5月	55円	60円
直近1年間累計	320円	345円
設定来累計	3,281円	3,428円

主要な資産の状況

マザーファンドの組入状況

マザーファンド	債券重視型	株式重視型
フィデリティ・ワールド債券・マザーファンド	68.0%	34.1%
フィデリティ・ワールド株式・マザーファンド	14.5%	48.5%
フィデリティ・ワールドREIT・マザーファンド	14.6%	14.5%
現金・その他	2.9%	2.8%

通貨別配分(2014年5月末現在)

債券重視型		株式重視型	
アメリカドル	50.4%	アメリカドル	41.6%
ユーロ	32.8%	ユーロ	20.4%
イギリス・ポンド	8.0%	イギリス・ポンド	13.7%
オーストラリアドル	2.8%	オーストラリアドル	7.3%
香港ドル	1.1%	日本円	6.0%
-	-	香港ドル	3.0%
-	-	スイス・フラン	1.8%
-	-	台湾ドル	1.2%
-	-	シンガポールドル	1.1%
その他	4.9%	その他	4.0%

国別配分*(2014年5月末現在)

債券重視型		株式重視型	
アメリカ	41.1%	アメリカ	36.2%
イギリス	11.1%	イギリス	15.1%
イタリア	6.7%	オーストラリア	7.4%
フランス	5.9%	日本	6.1%
ドイツ	4.9%	フランス	4.6%
オランダ	4.3%	ドイツ	3.7%
オーストラリア	3.5%	イタリア	3.6%
スペイン	2.9%	オランダ	2.8%
日本	2.7%	スイス	2.2%
スイス	1.4%	スペイン	1.6%
その他	17.2%	その他	16.7%
現金・その他	-1.6%	現金・その他	0.0%

(※発行体の国籍ベース)

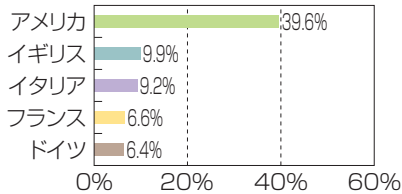
マザーファンドの運用状況

フィデリティ・ワールド債券・マザーファンド

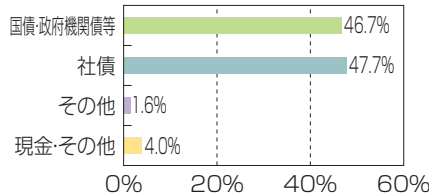
組入投資信託の上位銘柄比率

フィデリティ・ファンズ・コア・ユーロ・ボンド・ファンド	36.1%
フィデリティ・米国投資適格債・ファンド(適格機関投資家専用)	36.0%
フィデリティ・ファンズ・エマージング・マーケット・デット・ファンド	10.0%
フィデリティ・ストラテジック・ボンド・ファンド	8.0%
フィデリティ・ファンズ・ヨーロッパ・ハイ・イールド・ファンド	5.0%

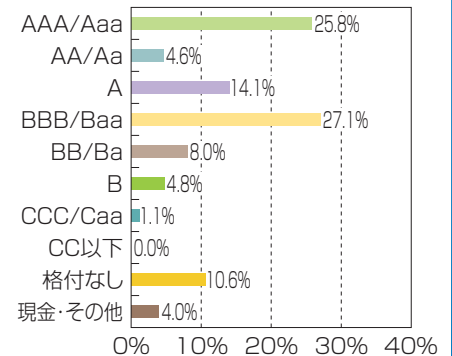
組入上位5カ国(発行体の国籍ベース)
(2014年5月末現在)



組入債券種別配分
(2014年5月末現在)



組入債券格付別配分
(2014年5月末現在)

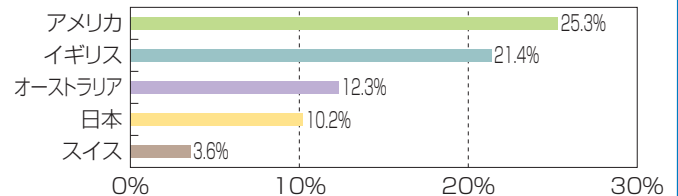


フィデリティ・ワールド株式・マザーファンド

組入投資信託の上位銘柄比率

フィデリティ・USエクイティ・インカム・ファンド(適格機関投資家専用)	22.9%
フィデリティ・ファンズ・アジア・パシフィック・ディビデンド・ファンド	18.2%
フィデリティ・マネービルダー・ディビデンド・ファンド	17.8%
フィデリティ・ファンズ・ヨーロッパ・ディビデンド・ファンド	14.9%
フィデリティ・日本配当成長株・ファンド(適格機関投資家専用)	9.9%

組入上位5カ国(発行体の国籍ベース) (2014年5月末現在)

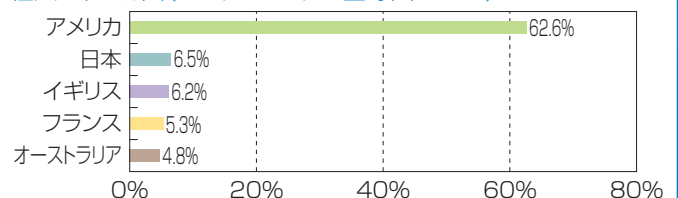


フィデリティ・ワールドREIT・マザーファンド

組入上位銘柄

SIMON PROPERTY GROUP INC	7.1%
PUBLIC STORAGE INC	4.6%
UNIBAIL-RODAMCO SE	4.4%
VENTAS INC	4.1%
BRITISH LAND CO PLC	3.3%

組入上位5カ国(リートファンドの登録国ベース)



※マザーファンドの運用状況における比率は別途記載がない限り、各マザーファンドの対純資産総額比率です。

※格付については、S&P社またはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社を優先して採用しています。([「プラス/マイナス」の符号は省略しています。])なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

フィデリティ投信が作成時点で取得可能な投資対象ファンドの開示資料のデータに基づき作成しております。ファンドによってはデータの分類方法や評価基準日が異なる場合があるため、概算・推定値となります。掲載データに関する正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。あくまでもファンドの概略をご理解いただくことを目的として作成されておりますことにご留意ください。

4. 手続・手数料等

お申込みメモ

購入単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社が定める期日までに、お申込みの販売会社にお支払いください。
換金単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目から、お申込みの販売会社にてお支払いします。
申込締切時間	原則として、販売会社の営業日の午後3時までに、販売会社が受付けたものを、当日のお申込み受付分とします。
購入・換金 申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークにおける銀行休業日、英国における休業日及び12月25日においては、スイッチングを含めお申込みの受付は行ないません。
購入の申込期間	2014年2月7日から2015年2月6日まで ※申込期間は上記の期間終了前に、ファンドの有価証券届出書を提出することにより更新されます。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行なうため、1日1件5億円を超えるご換金はできません。また、大口のご換金には別途制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込受付の中止 及び取消し	取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及び既に受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	原則として無期限(2006年3月9日設定)
繰上償還	各ファンドの受益権の残存口数が30億口を下回った場合等には、繰上償還となる場合があります。
決算日	原則、毎年1月、3月、5月、7月、9月及び11月の各10日 ※決算日にあたる日が休業日となった場合、その翌営業日を決算日とします。
収益分配	年6回、収益分配方針に基づいて、分配を行ないます。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 販売会社との契約によっては、収益分配金は、税引き後無手数料で再投資が可能です。
信託金の限度額	各ファンドにつき5,000億円
公 告	委託会社が投資者に対してする公告は、原則として、電子公告の方法により行ない、委託会社のホームページ(http://www.fidelity.co.jp/fij/)に掲載します。
運用報告書	毎年5月、11月に到来するファンドの計算期間終了後及び償還時に運用報告書を作成し、知れている投資者に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。
スイッチング	販売会社によっては、債券重視型・株式重視型間にてスイッチングが可能です。スイッチングに伴うご換金にあたっては、通常のご換金と同様に信託財産留保額及び税金がかかります。 ※スイッチングの取扱い内容等について、詳しくは、販売会社へお問い合わせください。

ファンドの費用・税金

[ファンドの費用]

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料 **3.24%(税抜3.00%)を上限**として販売会社が定めます。

信託財産留保額 基準価額に対し**0.20%**です。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) ファンドの純資産総額に対し、年0.8424%(税抜0.78%)の率を乗じた額が運用管理費用(信託報酬)として毎日計算され、ファンドの毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。

【運用管理費用(信託報酬)の配分】 (年率)

ファンドの純資産総額に対して	0.8424%(税抜0.78%)
委託会社	0.1836%(税抜0.17%)
販売会社	0.594%(税抜0.55%)
受託会社	0.0648%(税抜0.06%)

投資対象とする投資信託証券*

債券重視型	株式重視型
年率0.46%±0.10%(税抜)程度	年率0.50%±0.10%(税抜)程度

実質的な負担*

債券重視型	株式重視型
年率1.34%±0.10%(税込)程度	年率1.38%±0.10%(税込)程度

その他費用・手数料

組入有価証券の売買委託手数料、立替金の利息等	ファンドからその都度支払われます。ただし、運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を表示できません。
法定書類等の作成等に要する費用、監査費用等	ファンドの純資産総額に対して年率0.10%(税込)を上限とする額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、毎年5月及び11月に到来する計算期末または信託終了のときに、ファンドから支払われます。

* 2014年8月8日現在の投資対象ファンドに基づくものであり、投資対象ファンドの変更等により将来的に変動することがあります。
 ※当該手数料・費用等の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

[税金]

- 税金は表に記載の時期に適用されます。
- 以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時 期	項 目	税 金
分配時	所得税及び地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時及び償還時	所得税及び地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時及び償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

※上記は2014年6月末日現在のもので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」は、2014年1月1日以降の非課税制度です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5. 追加的記載事項

ファンド・ユニバースの概要(2014年8月8日現在)

マザーファンドが投資する投資対象ファンドを選定するファンド・ユニバースは以下の通りです。

下記の記載事項は、当該投資対象ファンド固有の事情により変更される場合があります。

下記の投資対象ファンドは、ファンド・ユニバースから除外される場合や、新たに追加される場合があります。

投資対象ファンド	運用会社	概要
フィデリティ・ファンズー コア・ユーロ・ボンド・ファンド (ルクセンブルグ籍証券投資法人)	FILファンド・マネジメント・ リミテッド(バミューダ)	主としてユーロ建ての債券に投資を行ないます。通常はユーロ建てかつ投資適格の国債や非国債に投資を行ないます。
フィデリティ・ファンズー ヨーロピアン・ハイ・イールド・ファンド (ルクセンブルグ籍証券投資法人)	FILファンド・マネジメント・ リミテッド(バミューダ)	本店所在地が西ヨーロッパ、中央ヨーロッパ、東ヨーロッパ(ロシアを含む)にあるか、あるいは主たる業務活動がそれらの地域で行なわれている企業が発行する高利回りの投資非適格証券に主として投資を行ない、高水準の利息収入の確保と元本成長を追求します。投資非適格証券とはS&Pによる格付けでBB+以下、ないし国際的に認められた格付け機関により同等の格付けを与えられた証券をいいます。
フィデリティ・ファンズー スターリング・ボンド・ファンド (ルクセンブルグ籍証券投資法人)	FILファンド・マネジメント・ リミテッド(バミューダ)	主として英ポンド建ての債券に投資を行ないます。
フィデリティ・ファンズー USDドル・ボンド・ファンド (ルクセンブルグ籍証券投資法人)	FILファンド・マネジメント・ リミテッド(バミューダ)	米ドル建ての債券に主として投資を行ないます。
フィデリティ・ファンズー USハイ・イールド・ファンド (ルクセンブルグ籍証券投資法人)	FILファンド・マネジメント・ リミテッド(バミューダ)	主として米国で活動を行なう企業が発行したハイ・イールド債券に主として投資を行ない、高水準の利息等の収入を確保するとともに、値上り益の追求を目指します。
フィデリティ・ファンズー エマージング・マーケット・デット・ファンド (ルクセンブルグ籍証券投資法人)	FILファンド・マネジメント・ リミテッド(バミューダ)	主としてエマージング債券へ投資を行なうことにより利息収入の確保と元本成長を目指します。ファンドは、ローカル市場の債券、エマージング市場の発行体が発行した株式や社債等にも投資を行なうことができます。投資対象国としてはラテンアメリカ、東南アジア、アフリカ、東欧(ロシアを含みます。)や中東等を含みます。
フィデリティ・ストラテジック・ボンド・ ファンド (英国籍証券投資法人)	FILインベストメント・ サービシズ(英国)・リミテッド	主に英ポンド建ての(または英ポンドに為替ヘッジされた)公社債を投資対象として、魅力的な水準の利息収入の確保を主たる目的とし、元本成長の可能性も目指します。
フィデリティ・米国投資適格債・ ファンド (適格機関投資家専用) (国内証券投資信託)	フィデリティ投信株式会社 マザーファンドの運用の委託先: FILインベストメンツ・ インターナショナル(英国)	フィデリティ・米国投資適格債・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として米国の米ドル建て投資適格債券(国債、政府機関債、モーゲージ担保証券、資産担保証券、社債等のうち、いわゆる投資適格債券としての格付を有するものをいいます。)に投資することにより、投資信託財産の長期的な成長を図ることを目的に運用を行ないます。
フィデリティ・USハイ・イールド・ ファンド (適格機関投資家専用) (国内証券投資信託)	フィデリティ投信株式会社 マザーファンドの運用の委託先: フィデリティ・マネジメント・アンド・ リサーチ・カンパニー(米国)	フィデリティ・USハイ・イールド・マザーファンド受益証券への投資を通じて、米ドル建ての高利回り社債(ハイ・イールド債券)を主要な投資対象とし、投資信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行なうことを基本とします。
フィデリティ・ファンズー オーストラリア・ファンド (ルクセンブルグ籍証券投資法人)	FILファンド・マネジメント・ リミテッド(バミューダ)	主としてオーストラリアの企業の株式に投資を行ないます。
フィデリティ・ファンズー アジア・パシフィック・ディビデンド・ファンド (ルクセンブルグ籍証券投資法人)	FILファンド・マネジメント・ リミテッド(バミューダ)	アジア・パシフィックに本店所在地があるか、あるいは主たる業務活動がそれら地域で行なわれている企業の配当利回りが高い株式を主要な投資対象とし、インカム収益の確保と元本成長を目指します。

投資対象ファンド	運用会社	概要
フィデリティ・ファンズー ヨーロッパ・ディビデンド・ファンド (ルクセンブルグ籍証券投資法人)	FILファンド・マネジメント・ リミテッド(バミューダ)	欧州に本店所在地があるか、あるいは主たる業務活動がそれら地域で行なわれている企業の配当利回りが高い株式を主要な投資対象とし、インカム収益の確保と元本成長を目指します。
フィデリティ・ファンズー グローバル・ディビデンド・ファンド (ルクセンブルグ籍証券投資法人)	FILファンド・マネジメント・ リミテッド(バミューダ)	配当支払を行なう、世界の株式を主要な投資対象とし、長期的な元本成長とインカムの確保を目指します。
フィデリティ・マネービルダー・ ディビデンド・ファンド (英国籍証券投資法人)	FILインベストメント・ サービシズ(英国)・リミテッド	主に英国の証券(普通株式、優先株式、転換社債、社債等を含みます。)を投資対象として、配当収益および長期的な元本成長の双方を獲得することを目標とします。
フィデリティ・USエクイティ・インカム・ ファンド (適格機関投資家専用) (国内証券投資信託)	フィデリティ投信株式会社 マザーファンドの運用の委託先: ピラミス・グローバル・アドバイザーズ・ エルエルシー*(米国)	フィデリティ・USエクイティ・インカム・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として米国の取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている米国企業の株式等を投資対象として、市場の配当利回りを上回る配当を目指すとともに、長期的な元本成長を目標とします。
フィデリティ・日本配当成長株・ ファンド (適格機関投資家専用) (国内証券投資信託)	フィデリティ投信株式会社 マザーファンドの運用の委託先: FILインベストメント・マネジメント (シンガポール)・リミテッド	フィデリティ・日本配当成長株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている株式を主要投資対象とし、高水準の配当等収益の確保を図るとともに投資信託財産の長期的な成長を図ることを目的に運用を行ないます。
フィデリティ・オーストラリア 配当株投信 (適格機関投資家専用) (国内証券投資信託)	フィデリティ投信株式会社 マザーファンドの運用の委託先: FILインベストメント・マネジメント (オーストラリア)・リミテッド	フィデリティ・オーストラリア配当株マザーファンド受益証券への投資を通じて、オーストラリア証券取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている株式を主要な投資対象とし、配当等収益の確保と投資信託財産の成長を図ることを目的に運用を行ないます。
フィデリティ・ワールドREIT・ マザーファンド (国内証券投資信託)	フィデリティ投信株式会社 ファンドの運用の委託先: フィデリティ・マネジメント・アンド・ リサーチ・カンパニー(米国)	主として日本を含む世界各国の取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている不動産投資信託(リート)(これに準ずるものを含みます。)に投資を行ない、配当等収入の確保を図るとともに投資信託財産の長期的な成長を図ることを目的に運用を行ないます。
フィデリティ・グローバル・リート・ マザーファンド (国内証券投資信託)	フィデリティ投信株式会社 ファンドの運用の委託先: FILインベストメント・ インターナショナル(英国)	主として日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている不動産投資信託(リート)(これに準ずるものを含みます。)に投資を行ない、配当等収益の確保と投資信託財産の成長を図ることを目的として運用を行ないます。

* ピラミス・グローバル・アドバイザーズ・エルエルシーは、米国を本拠地とするFMR LLCの子会社です。

【投資対象ファンドの変更のお知らせ】

弊社関連会社であるFILインベストメント・インターナショナルが運用する「フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンド」(以下、「新投資対象ファンド」といいます。)が2014年3月6日に設定されたことを受け、フィデリティ・マネジメント・アンド・リサーチ・カンパニーが運用する既存の「フィデリティ・ワールドREIT・マザーファンド」(以下、「既存の投資対象ファンド」といいます。)から当該新投資対象ファンドへ、2014年8月8日より変更を実施いたします。なお、新投資対象ファンドの運用方針は、既存の投資対象ファンドの運用方針と同一であることから、ファンドの運用の実態等に実質的な影響を及ぼすものではなく、投資者の皆様の不利益となる事実はございません。

また、市況動向等を勘案しながら徐々に変更しますので、2014年8月8日以降一定期間は、2つの投資対象ファンドに投資することになりますが、ファンドの「世界リート」への基本資産配分が変わることはありません。